

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和1年10月15日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690100118		
法人名	医療法人社団 萩野医院		
事業所名	グループホームおわら		
所在地	富山市八尾町西町2386		
自己評価作成日	令和元年8月20日	評価結果市町村受理日	令和元年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>八尾の旧町で唯一の介護施設として萩野医院との医療連携を軸に、看取り介護を含めたサービスを提供しています。また重度化した場合は法人内の施設同士で連携し適切な看護・介護のアドバイスを受けています。日常的に近隣住民や地域の保育所、中高生との交流や、曳山祭り、風の盆や坂の町アートなどの行事に参加して交流を図っています。</p>

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	令和元年9月18日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>萩野医院との医療連携が確立され、利用者の健康状態がしっかりとフォローされており、安心して最期までここで過ごしたいとの、利用者・家族の希望に沿うよう支援している。新人はじめ全職員がケアに対する取り組みは意欲的で、レベル向上に励んでいる。事業所は「おわら」の里に位置していることでもあり、地域との関わりは大きく、各種の催事に積極的に参加している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

グループホームおわら

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の重要性を認識するための勉強会を行っています。職員は理念を軸に日々のケアに取り組んでいます。毎月のカンファレンスで理念の唱和をしています。	法人統一の理念に加え、事業所独自の目標として、「目を見て、笑顔で、挨拶を」と定め、職員全員が共有できるようにホールに掲示しており、それを朝礼やミーティングの時に唱和している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「坂の町アート」に出展したり、保育園児や小中学生の訪問もあり、地域との交流を大切にしています。また施設の防火訓練にも参加して頂いています。	地元の催事には積極的に参加し、利用者と地域との関わりを大切にしている。「街中アート」では、絵を玄関先に展示したり、子供たちの訪問を積極的に受け入れるなど、地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年14歳の挑戦では1週間の実習で入居者と触れ合い、学ぶ機会を提供しています。又、去年は家族交流会の中で認知症についての勉強会を行い、地域の方にも認知症の理解や支援方法や予防方法を伝えました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では第三者評価、実地指導、研修会、消防訓練、家族交流会、季節毎の行事などの報告を行い、ご意見やアドバイスを頂きサービス向上に活かしています。また、身体拘束適正化委員会の協議をする場として活用しています。	運営推進会議は定期的開催され、事業所からは社内研修会でテーマになったことや、行事の様子を報告している。委員からは災害訓練について質問が出るなど、活発に意見交換が行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会では八尾行政サービスセンター所長や地域包括支援センターに参加してもらい事業所の事情やケアサービスの取組み実態を伝えながら協力関係を築くように進めています。	法人内に地域包括支援センターの窓口があることから、情報交換は随時行っている。市の行政センター長が運営推進会議の委員でもあり、市との協力関係を築くよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて勉強会を行い重要性を共有しています。また常に入居者の心身の状態を把握してより良いケアについてチームで話し合い取り組んでいます。	身体拘束をしないケアについては、日頃から職員全員に徹底されており、3か月ごとの研修会や日常業務の中で確認している。利用者に落ち着きのない行動があれば、やさしく話しかけ、笑顔で接するよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について勉強会を実施しており重要性を認識しています。事業所内での虐待がないよう、チーム全員が気配りをし、介護に取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の説明を受けています。現在その制度を利用されている入居者はいませんが、おられた時は支援をしていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は家族に契約内容を十分に説明をしており、納得のうえ契約を締結しております。不安や疑問点は、その都度相談にのっています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者のケアの様子や行事予定を毎月の通信で家族に報告し、さらに家族アンケートや家族交流会などで意見や要望を把握しています。寄せられた意見や提案は職員で話し合い運営に活かしています。	家族交流会はじめ毎月の通信で利用者の近況を伝え、利用者・家族とのコミュニケーションを図っている。また、毎年家族あてアンケートを行っており、集約された家族の要望などは速やかに運営に役立てるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務中やカンファレンスの時に職員からの意見や相談、提案を聞き、必要に応じて全体会議で話し合ったり、管理者、代表者に報告して意見を反映しています。	管理者との定例的な面接はないが、管理者は日常業務の中で、職員の意見や要望を聞くようにしている。職員から制服などの要望があれば、即対応できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員の実績、勤務状況を把握しており、人事考課しています。それらが給与や賞与、就業環境の整備に反映されます。これらの事でやりがいを持って働ける様努めています。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者からの報告を受け職員の能力に合った研修が受けられる様配慮しています。また職員の質や能力向上のため、年間の研修計画をたてており、毎月研修を行っています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修などに参加する様に勧めており、同業者と交流しサービスに関する情報交換する機会を作れるよう心掛けていますが、なかなか難しい現状があります。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談したり、入居以前の介護支援専門員から情報を得て本人の要望を把握し安心して生活出来る様努めています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前後に家族と面談し、家族の不安や要望を聞いています。その要望に対して、できるサービスを説明し、安心して頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報を得ると共に、入居後一週間、全スタッフから日常生活の様子などを情報収集し、生活する上での問題点や必要な支援を話し合い見極めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活をする上で助け合える様に配慮しており、洗濯物を畳んで頂いたり、季節の食べ物の作り方を教えて頂いたりしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支えるためには、本人の思いを一番理解している家族の力が必要であることを話し、家族と共に考えるよう努めています。また、時間的制限等でスタッフではできない部分の協力をお願いしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	入居者は、旧町や八尾町に縁がある方が多く、友人知人が近所に住んでおられる為、自由に面会に来て頂いています。また休日には自宅や買い物に出掛けられるよう支援しています。	町内の馴染みの訪問者も多く、事業所内は和やかな雰囲気となっている。利用者は城ヶ山公園へ季節の花見に出かけたり、地元の行事にも参加するなど楽しんでいる。また馴染みの店へ家族と食事に出かけたり、思い思いに過ごしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の認知機能や性格を把握しトラブルが起きない様に席を考えて一緒に洗濯物畳みやレクリエーションに参加が出来るよう努めています。ご夫婦で入居されている方もおられる為、ご夫婦の時間をとれる様に配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居されていた本人及び御家族が近所に住んでおられることも有り、契約終了後も地区の行事を通して関わっている他、支援に関する情報は5年間保管しており希望時は何時でも提供できる事を伝えています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に本人及び家族よりホームでの生活や支援についての希望などを確認しています。意思表示の難しい方は生活歴や普段の生活の様子、言動から本人の思いを汲み取りカンファレンスで話し合い、支援の方法を検討しています。	利用者が穏やかな表情で過ごしている時や、入浴介助の時であったりと、常にコミュニケーションを図りながら、本人の思いや意向の把握に努めている。困難な方には、今までの生活歴をふまえ、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後も今までの生活習慣を変えない様に本人、家族、前担当者に状況を聴いています。また、新たに知った情報はカンファレンスや申し送りノートで全スタッフが共有し、その人らしく暮らせる様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	新規入居者の場合一週間重点的に現状の把握をしています。それ以外の方も日々の担当者がその日の状態や過ごし方を記録し、申し送りを行っています。全スタッフが協力し、本人の力を引き出せるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成前に御家族及び本人のホームでの生活や支援への希望や考えを確認しています。カンファレンスや日々の申し送り等を通して本人の状態を把握し現状に即した支援や方法をケアプランに反映し、落とし込む様努めています。	自分のことは自分です、夫婦で過ごす時間を持ちたいなど、本人家族の思いを尊重し、職員間でケアのあり方を話し合い、現状に沿った介護計画に取り組んでいる。下肢筋力の低下を防ぐためリハビリを取り入れるなど、状態を確認しながら進めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日リーダーを中心に日々の様子や支援を記録しています。心身面で変化があった時は記録や申し送りノートを利用して情報の共有を図っています。新たな支援等を行った時も記録に落とし込み、プランの見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフ一人ひとりが自分の特技や技術を活かして様々な支援を提供しています。変化する本人や家族のニーズ、希望に対応できる様、積極的に事業所内外の研修に参加する機会が設けられ自己研鑽に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のボランティアを始め保育所、小学児童、14歳の挑戦、サマーボランティア等の受け入れを行っています。地域の祭りや行事にも積極的に参加しホームでの生活に活かしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人は入居前より萩野医院を利用しておられ、入居後も変わらず萩野医師をかかりつけ医に希望されます。当事業所も入居者が必要な医療を受けられる様、普段から萩野医院と密に連携を取り指示を仰げる体制になっています。	ほとんどの利用者は、かかりつけ医である萩野医院への信頼度も高く、いつでも適切な医療が受けられるよう支援に取り組んでおり、本人家族は安心して生活を送っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは毎日バイタルを測定し異常、体調不良等があれば看護師に報告、Drの指示を仰ぎ必要な処置を行う体制を整えています。又必要に応じて萩野医院及び協力病院を受診できるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはケアマネが中心となり情報提供を行っています。また退院に際しては管理者及びケアマネが当該病院の退院時カンファレンスに参加し状態の把握、支援方法等の助言をもらっています。家族への支援としては不安が軽減する様に入退院時に相談に応じ必要な支援を行うよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の意向を家族に確認しています。実際に看取りに入った時は医師より家族に本人の状態及び看取りの説明があり、再度、終末期の意向を確認し当ホームで行える支援について説明、同意を得た上で看取りのケアプランを実践しています。	終末期に於いては、本人家族の意向を確認し、医療機関との連携を図りながらチームで取り組んでいる。利用者に不安を感じさせないように、普段通りのケアに努め、最期まで穏やかに過ごせるよう家族と共に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は事業所内外の研修に参加し救急救命を始め感染症等の対処方法について学んでいます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員で年二回避難訓練を実施しており、その際近所の方々に協力をお願いしています。訓練では全スタッフがあらゆる状況でも、役割をこなせるように、順番に担当を変えています。訓練の結果は運営推進委員会等で報告しています。	避難訓練の時には、様々な事態を想定し町内の協力を得て実施している。町中という立地条件から、火災時の風向きも考えて避難場所を確保している。また職員の役割の確認や、食料など備蓄品の点検も定期的に見直しを図っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、その方の誇り、プライバシーに配慮した言葉をかけ対応しています。その人らしく暮らせるように思いやりをもって支援しています。	利用者は、自分のことは自分ですとの意識が高い。一人ひとりに尊敬の念を持ち、手助けのタイミングを図りながらプライドを損ねない対応に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	健康や環境などに関係する時は日々の記録やスタッフの意見も参考にしながら一人ひとりが、決定できるよう本人のペースにあわせた対応をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その時の心身の状態に合わせて起床食事の時間など、その人のペースに合わせて対応しています。昼寝本読み編み物など本人の過ごしたいように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が好みの服を選び着用されています。毎月、理容師が訪問しており本人や家族の希望の髪型を伝えていきます。美容講習会を開きお化粧を楽しんでいます。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の苦手な料理がある時は、別の食材を用意して好みに沿うように工夫しています。食事に介助を要する人は声掛けをしながらゆっくり、味わって食べてもらっています。	食事は温かく調理して提供している。利用者の好き嫌いや体調によって食欲や進み具合にもムラがあり、無理強いせず様子を見ながら勧めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養のバランスを考えて業者に依頼して提供しています。またパンや蕎麦などが嫌いな人は好みに合わせて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合わせた介助方法で、できるかぎり自力で口腔ケアを行ってもらっています、夜は義歯の方は預かり洗浄剤を使用し清潔を保っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレで排泄したいとの本人の思いを大切に、声掛けしています、一人ひとりの排泄パターンや習慣などを把握し、気持ち良く排泄ができるよう支援しています。	出来る限りトイレでの排泄ができるよう、下肢筋力の低下防止に取り組んでいる。トイレでの排泄が生活のリハビリと捉え、本人の意欲を大切に、清潔で気持ちよい排泄支援を勧めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中の水分摂取が多くなる様、特に午前中は多めに取ってもらっています。ラジオ体操などの運動で自力排便できるよう支援しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決めています、利用者の体調、気分、希望に合わせて変更しています。関わり方、声掛けなど気持ちよく入浴できるよう、工夫、配慮しています。	季節を問わず室内と浴室との温度差に注意し、車椅子から浴室への移乗時や浴槽の出入りなど、安全面に配慮している。入浴時間は職員とのコミュニケーションの場でもあり、ゆっくりと入浴できるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や就寝の時間は決めていません。本人の体調、リズムに合わせて「おやすみなさい」のあいさつをするなど、安心して眠れる様支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴薬剤情報により一人ひとりの薬を理解しています。処方が変更された時には体調や症状を観察し家族に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に洗濯物たたみ、新聞たたみなど役割を持てるよう支援しています。趣味を尊重し編み物、生け花等を楽しんで頂き張り合いのある暮らしへの支援をしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段から玄関は施錠せず日常的に自由に散歩に出掛けられるようにしています。地域の行事への参加や花見、坂の町アート作品展、ドライブにも出かけ、家族の協力を得ながら外出を支援しています。	事業所前のベンチで日向ぼっこをしたり、散歩や商店への買い物など利用者は日常的に出かけている。風情ある町全体の行事も多く、季節ごとに出かけては、地元の人達との交流を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、ご家族と相談して財布を持って頂いています。洋服を買いたい人など付き添いにより買い物に行く様にしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望されれば事業所の電話を使って家族に連絡を取る事ができます、自分で携帯を持っている人は直接電話されています。本人の要望で手紙をポストに入れる支援もしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は町中にあり、一日の大半を過ごされるリビングは大きな障子戸から差し込む明るい日差しに包まれています。季節ごとの花や壁飾りなどで四季を味わって頂き、廊下突当りからは山や川が眺められます。室温も入居者に合わせ、暮らし易い様に支援しています。	玄関に入ると、風の盆「おわら」のポスターとコスモスやダリアの色とりどりの季節の花が迎えてくれる。通りに面した大きな障子戸には、訪問してくれた保育園児たちの笑顔を描いたタペストリーが飾っており、利用者に元気を与えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの個性を把握し、その時々体調や思いをくみ取って席替えし、気の合う方同士並んで頂いたり、独り静かに出来る空間を作ったりする等の工夫をしています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホームでの生活を、これまでの生活の延長と考え、可能な限り愛用されていた身の回りの品物をおいて頂き、本人がゆったりと安心して過ごして頂ける様、空間作りをさせて頂いています。	居室でテレビを見たり、俳句を作ったりと一人で過ごす時間や、夫婦で過ごす時間を大切にしている。利用者が安心して落ち着いて生活ができるよう、家族と相談しながら居室作りに取り組んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体がバリアフリーであり、手摺が各所に設置されています。居室の個人名、トイレ等は目に留まりやすいよう手書きにし目線に合わせた高さに設置しています。トイレ便器側にも手摺を設置しました。			

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームおわら
作成日 令和 1年10月25日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		介護のベテラン職員が多く、今までの経験に頼った介護で良いと思ってしまっている部分があるので、より良いサービスを提供できないか考える必要がある。	職員同士が声を掛け合って、より良い介護サービスが提供できる様に考えてスキルアップを計る。	実践者研修やリーダー研修などの受講者が、研修で学んだ中で役に立ったテーマについて、カンファレンスの時間に職員を対象として勉強会を行う。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。